



阿久根  
賢一



岡理事  
長



## 認知症は100人いれば、100通り。(阿久根)

**阿久根** 岡博子先生は豊泉家グループの一員である、ほうせんか病院の理事長であり、現場では院長を務めておられる先生です。豊泉家グループで私は社会福祉法人担当で、岡先生は医療法人担当。現場同士のつながりはあるのですが、理事長同士でお話をする機会って、実はあまりないんですよね。世の中が高齢社会になってきて、ほうせんか病院も高齢者の方が多く、認知症の方もたくさんおられると思います。これを機に、長くそういった患者様を見てこられた先生と、ゆっくりお話ができればと思い、対談のお相手をお願いいたしました。



**岡理事長** 今は諸事情で変わりましたが、私は以前、阿久根理事長の主治医も務めさせていただいてましたね。患者様として関わっていた当時は、「早く痩せてくれへんかなあ。」とっていましたよ(笑)。

**阿久根** 毎回、言われていましたね(笑)。  
ところで、ほうせんか病院に入院されている患者様で、認知症を有されている方は多くいらっしゃるのですか。

**岡理事長** ほとんど、そうですね。病床数は220床ありまして、常時200人くらいの患者様が入院されています。多くが80~100歳という高齢の方で、平均年齢は84~85歳くらい。合併症になって寝たきりになっている方が多いですし、お話が出来ても意思疎通が上手くいかない、なにを言っても覚えていただけない。そういう方が非常に多いので、たぶん半数くらいは認知症を発症されているのではないかなと思います。

**阿久根** 医療の現場では今後、確実に増える認知症の問題について、どう考えられていますか。

**岡理事長** こう言っては身もふたもないかもしれませんが、現状では仕方がないですね。今のところ、お薬で予防はできません。進行を防ぐ薬は出ていますが、効いているなど実感はできないので。iPS細胞を用いたものなど研究が進んでいるようですが、もっと画期的なお薬が出るまでは、難しいでしょうね。

**阿久根** そうですね。それならば、これからは更に医療と介護それぞれの現場での結びつきを深める必要がありますね。認知症は一つの病気ですので、医療による的確な診断と的確なケアを組み合わせる。そうすることで、認知症をお持ちの方々のQOLを高めていくべきでしょう。それにひと言で認知症と言っても、現れる症状は様々ですね。

**岡理事長** 認知症の分類は様々ありますね。脳のどの部分が萎縮しているかによって、記憶障害が出たり、性格が変わって過激になるとか。こちらがいくら上手く働きかけをしても、思うようにいかない場合もありますね。

**阿久根** 認知症は100人いられれば、本当に100通りだなと感じます。他の病気であれば、ある程度診断が付けられ、治療法が確立していますが、認知症は多少お薬で改善することは出来ても、完治させる治療は難しい。根本的な治療薬はありませんね。

**岡理事長** 認知症に関してお薬は、お守りみたいなのところもありますね。飲んでるから効いているのか、飲まなかったらどうなのかはわからないんですよね。

**阿久根** 中核症状に効くお薬は極わずかで、あとは周辺症状を少しでも穏やかにするとか、逆に元気を出させるとか、そういうお薬の調整ですね。やはり今後はますます、特に認知症においては、医療と介護の連携が大事だと思います。それと認知症は意外と、適切な診断にまでいかないことがあるんですよね。先生に診てもらわなければ、家族や周りの人からの「あの人はボケている。」の評価で終わったりしますので。今後は、ほうせんか病院でも認知症の診断をお願いできればと思っています。

